

\*米国本社リリース参考訳

\*公式リリースは[P & G米国本社サイト](#)をご覧ください。

## 2016/17 事業年度 第 1 四半期 (7-9 月期)

**P & G、純売上高は前年同水準、本源的売上高は 3%増、  
希薄化後 1 株当たり純利益は 5%増加し 0.96 ドル、1 株当たり中核利益は 5%増の 1.03 ドル**

2016 年 10 月 25 日 米国シンシナティ発

ザ・プロクター・アンド・ギャンブル・カンパニー(NYSE:PG)は、2017 事業年度第 1 四半期の純売上高が、前年同期と同水準の 165 億ドルであったと発表しました。本源的売上高は、3%増加しました。これは 5 つあるすべての事業セグメントで、いずれも本源的販売量がひと桁前半から半ば増加したことによるものです。希薄化後 1 株当たり純利益は、前年に対し 5%増加し 0.96 ドル、1 株当たり中核利益は、前年に対し 5%増加し 1.03 ドルでした。為替レートの影響を除く 1 株当たり中核利益は、前年比 12%増加しました。報告書上の営業利益率は、前年同期と比べ同水準でした。中核営業利益率は 20 ベーシス・ポイント増加しました。これは中核売上総利益率の改善によりもたらされ、純売上高に対する販売費・一般管理費の割合の増加で一部相殺されました。

当四半期の営業キャッシュフローは 30 億ドルでした。フリーキャッシュフロー生産性は 85%でした。当社は 10 億ドルの自社普通株式を買戻すとともに、株主の皆様へ 19 億ドルの配当金を還元しました。

会長、社長兼最高経営責任者(CEO)のデビッド・テイラーは、「第 1 四半期は、当事業年度にとって好調なスタートとなりました。当社は、幅広い製品カテゴリーと地域にわたって、本源的売上高を伸ばすとともに、コスト削減を力強く達成しました。今月、当社は、ビューティー事業のいくつかのブランドをコティ社に売却し、ポートフォリオ変革における最後の重要なステップを完了しました。これによって、現在、当社は、P & Gが主導的地位にあり、かつ、構造的に魅力のある 10 の大きなカテゴリーに全力を注いでいます。私たちは、一連の進捗を喜ばしく思っております。その一方で、バランスのとれた売上高と利益の成長、ならびに、業界最高の株主価値創造を継続的にもたらすキャッシュ創出を、再び達成するための必要課題に、引き続き取り組んでまいります」と述べています。

## 7-9 月期について

2017 事業年度第 1 四半期の純売上高は、為替レートが 3%悪影響を及ぼしたものの、前年同期と同水準の 165 億ドルでした。本源的売上高は、本源的販売数量の 3%増の恩恵を受け、3%増加しました。すべてを反映した販売量は、小規模ブランドの売却と、ベネズエラの関係会社の売上高を連結対象から除外した影響を受けながらも、2%増加しました。

2016年7-9月期 純売上高増減要因*	販売 数量	為替 レート	価格 改定	ミックス	その他**	純売上 高	本源的 販売数量	本源的 売上高
ビューティー事業	-2%	-2%	1%	1%	1%	-1%	2%	3%
グルーミング事業	—	-3%	1%	—	1%	-1%	3%	3%
ヘルスケア事業	5%	-3%	1%	1%	—	4%	5%	7%
ファブリック& ホームケア事業	2%	-2%	-1%	1%	1%	1%	4%	4%
ベビー、フェミニン& ファミリーケア事業	3%	-3%	-1%	-1%	1%	-1%	4%	2%
<b>P &amp; G全体</b>	<b>2%</b>	<b>-3%</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>1%</b>	<b>—</b>	<b>3%</b>	<b>3%</b>

\*これらの純売上高に係る増減割合は、継続的に適用している数式に基づく概算値です。

\*\*その他には、事業の買収・売却による売上ミックスの影響、および純売上高との差異分析に欠かせない端数処理が含まれます。

- ビューティー事業セグメントの本源的売上高は、本源的販売量の増加と、ヘアケアとスキン&パーソナルケア両部門における価格の見直しにより、前年と比べ3%増加しました。スキン&パーソナルケア部門の本源的売上高は、スーパープレミアムブランドである「SK-II」の力強い継続的な成長を受け、増加しました。ヘアケア部門の増加は、「パンテーン」と「ヘッド&ショルダーズ」のひと桁台半ばの増加によるもので、小規模ブランドにおける減少により一部相殺されました。
- グルーミング事業セグメントの本源的売上高は、カミソリ・替刃部門と電化製品部門での製品イノベーションに力強くけん引されて本源的販売量が増加したことにより、3%増加しました。本源的売上高は、カミソリ・替刃部門がひと桁台前半の増加、電化製品部門がひと桁台半ばの増加となりました。
- ヘルスケア事業セグメントの本源的売上高は、製品イノベーションと価格設定の見直しによってパーソナルヘルスケア部門がふた桁成長を遂げたことにより、7%増加しました。オーラルケア部門の本源的売上高は、幅広い販売量の増加と、電動歯ブラシ事業での有利な製品ミックス、価格設定の見直しにより、ひと桁台半ばの増加となりました。
- ファブリック&ホームケア事業セグメントの本源的売上高は、ファブリックケア部門とホームケア部門におけるひと桁台半ばの増加により、前年と比べ4%増加しました。ファブリックケア部門の本源的売上高は、製品革新と積極的なマーケティング投資を背景とした先進市場でのひと桁台後半の増加に牽引されました。ホームケア部門は、製品革新の拡大を背景に先進市場と開発途上市場の両方で本源的売上高がひと桁台半ば増加しました。

- ベビー、フェミニン&ファミリーケア事業セグメントの本源的売上高は、3つの部門すべてで本源的販売数量がひと桁台半ば増加した恩恵を受け、2%増加しました。ベビーケア部門の本源的売上高は、市場の拡大、製品革新、および、消費者価値の向上を背景に、ひと桁台前半の増加となりました。フェミニンケア部門の本源的売上高は、先進市場と開発途上市場の両方において販売量がひと桁台半ばの成長をしたことにより、ひと桁台前半の増加となりました。ファミリーケア部門の本源的売上高は、新製品導入により、ひと桁台前半の増加となりました。

継続事業からの希薄化後1株当たり純利益は、基準期間に比べ4%増加の1.00ドルでした。希薄化後1株当たり純利益は、前年に対し5%増加し0.96ドルでした。当年度の業績には、1株当たり0.04ドルの非継続事業からの損失、および、0.03ドルの非中核分野での組織再編費用が反映されています。非中核分野での組織再編費用と非継続事業からの業績を除いた1株当たり中核利益は、前年同期と比べ5%増加し、1.03ドルでした。為替レートの影響を除くと、当四半期の1株当たり中核利益は12%増となりました。

報告書上の売上総利益率は、20ベース・ポイントに上る非中核分野での組織再編費用を含め、30ベース・ポイント増加しました。中核売上総利益率は、80ベース・ポイントに及ぶ為替レートの悪影響を受けながらも、50ベース・ポイント改善しました。為替レートの影響を除くと、中核売上総利益率は130ベース・ポイント改善しました。これは190ベース・ポイントに上る生産性向上によるコスト削減、および20ベース・ポイントのスケールメリットによりもたらされました。こうした恩恵が、ミックスによる悪影響、イノベーションと生産能力拡大に対する投資、および、コモディティコストの上昇による向かい風を上回りました。

報告書上の純売上高に対する販売費及び一般管理費(販売管理費:SG&A)の割合は、非中核分野での組織再編費用を引き当てた前年に比べ減少したことによる10ベース・ポイントの恩恵を含めても、前年と比べ20ベース・ポイント上昇しました。純売上高に対する中核販売管理費の割合は、30ベース・ポイントに上る為替レートの悪影響を含め、40ベース・ポイント上昇しました。為替レートの影響を除くと、純売上高に対する中核販売管理費の割合は、前年同期比10ベース・ポイント上昇しました。これは、広告宣伝とサンプル配布への投資の増加が、間接経費支出とマーケティング費用削減による生産性向上を上回ったことによるものです。

報告書上の営業利益率は、前年同期と同水準でした。中核営業利益率は、100ベース・ポイントに上る為替レートの悪影響を受けながらも、20ベース・ポイント増加しました。為替レートの影響を除いた中核営業利益率は、当四半期で270ベース・ポイントに上る生産性向上によるコスト削減により、120ベース・ポイント改善しました。

## 2017 事業年度の予想

P & Gは、2017 事業年度の本源的売上高が約 2%増加するとの予想を維持すると発表しました。為替レートと小規模ブランドの売却とあわせて約 1%の悪影響を見込んでおり、その結果、2017 事業年度の純売上高は、最終的に約 1%の増加になるとの予想を維持しています。

当社は、1 株当たり中核利益の見通しは、2016 事業年度の 3.67 ドルに対し、ひと桁台半ばの範囲で増加すると引き続き考えています。報告書上の 1 株当たり純利益は、2016 事業年度の 3.69 ドルと比べ 45～50%の範囲で増加するものと予想されます。2017 事業年度の報告書上の 1 株当たり純利益の見通しには、約 0.10 ドルの非中核分野での組織再編費用、および、今月すでに着手した負債の早期削減に関連する 0.13 ドルの費用が含まれています。さらに、報告書上の 1 株当たり純利益には、コティ社に対するビューティー事業の 41 ブランドの多額の売却益が含まれています。2016 年 10 月 1 日に完了したコティ社への売却から得られる正確な利益は、第 2 四半期の業績発表で報告予定です。

## 将来展望に関する記述

このニュース・リリースや図表に含まれる過去の事実を除く記載について、見通し、予定、事業計画に関する記述、目標、業績予想ならびに、これらの記述の元となっている仮定を含むすべての記載内容は、米国証券民事責任訴訟改革法(1995 年)、米国証券法(1933 年)第 27 条 A、米国証券取引法(1934 年)第 21 条 E に規定されている“将来展望に関する記述”に従っています。将来展望に関する記述は、一般に、「信じている」、「推定する」、「予想する」、「予期している」、「見積もる」、「意図している」、「戦略」、「将来」、「機会」、「計画」、「可能性がある」、「はずである」、「予定である」、「意思がある」、「～となる」、「今後も継続する」、「おそらく～結果となる」その他同様の表現により、特定されています。将来展望に関する記述で述べているまたは示唆している内容は、現在の予想と仮定に基づいており、将来展望に関する記述とは大きく異なる結果を起こしうるリスクと不確実性の影響下にあります。新しい情報、将来の出来事、またはその他の要因が発生しても、当社は、将来展望に関する記述を公に更新や改定するいかなる義務も有していません。

当社の将来展望に関する記述を左右するリスクと不確実性には次のものが含まれます。たとえば：(1) 通貨変動、外国為替レート、価格統制、ならびに地域の流動性など世界規模の財務リスクを巧みに管理できる能力；(2) 市場成長率の減少を含め、地域、広範地域、または世界規模の経済の流動性を巧みに管理し、期待される自己株式の買戻しと配当の支払いが可能なほどの十分な収益とキャッシュフローを生み出す能力；(3) 債券市場での下落、または、債券のレーティングを巧みに管理する能力；(4) 主要な製造元、および供給元(単独供給元、製造元を含む)を維持でき、自然災害と戦争やテロ行為など当社の制御不可能な要素による事業の中断を巧みに管理できる能力；(5) コモディティ費、原材料、人件費、エネルギー費、年金ならびに健康保険費などのコスト変動と上昇圧力を首尾よく管理する能力；(6) 革新の最先端を歩み続け、必要とあらば知的財産の保護を受け、特許を受け、他社に対して技術上の優位を巧みに

達成する能力;(7) 価格、販売促進のインセンティブ、製品の取引条件などを含む競争上の要因を巧みに対処し、新規および既存の販路に対する地域限定または世界規模で他社と競合できる能力;(8) 主要な顧客との関係を管理・維持できる能力;(9) 安全性、品質、原料、効率性または発生のある同様の事項に関する懸念を含む、現実または起きているかのように認識される問題を適切に管理することで当社への評価とブランドエクイティを守る能力;(10) 供給先、契約相手方、および外部のビジネスパートナーなど第三者との間で生じる財務リスク、法務リスク、風評リスク、ならびに事業運営リスクを成功裡に管理できる能力;(11) 主要な情報技術システムとネットワーク(自社開発だけでなく第三者システムとネットワークも含む)を信頼・管理し、当システム・ネットワークとそこにあるデータの機能とセキュリティを確保できる能力;(12) 規制および法律上の要求や問題(製造物責任関連、知的財産権、独占禁止、個人情報保護、税務、会計基準、環境などを含む)を成功裡に管理でき、現在の予測の範囲内で係争事項を解決できる能力;(13) 該当する税法および法規制の変更に対処できる能力;(14) 従来事業の目標達成に悪影響を及ぼすことなく、事業ポートフォリオ最適化戦略、現在進行中の事業買収、売却および合併を成功裡に実行し、会社全体のビジネス戦略を達成できる能力;(15) 主にスキルが高く経験豊かな従業員の存在が限られる主要な成長市場地域において、特に重要な人材を成功裡に見出し、育成し、維持しつつ、経常的に行う組織変更を首尾よく管理し、生産性向上とコスト削減を達成できる能力;ならびに(16) イギリスのEU 離脱に関連する不確実な影響を管理する能力。実際の業績がこのニュース・リリースで予想したものと大きく異なる結果をもたらす可能性のある要因に関する追加情報については、直近の10-K、10-Q、8-Kのレポートをご参照ください。

## P & Gについて

P & Gは、高い信頼と優れた品質で、市場をリードする製品ブランド群を世界中の人々にお届けしています。それらのブランドには、オールウェイズ®、アンビピュア®、アリエール®、バウンティ®、シャーマン®、クレスト®、ドーン®、ダウニー®、フェアリー®、ファブリーズ®、ゲイン®、ジレット®、ヘッド&ショルダーズ®、レノア®、オレイ®、オーラルB®、パンパース®、パンテーン®、SK-II®、タイド®、ヴィックス®、ウィスパー®などが含まれます。P & Gは約 70 カ国に現地事業拠点を置き、世界的に事業を展開しています。P & Gとその製品について、最新の詳しい情報は、米国本社ホームページ <http://www.pg.com>(英語)をご参照ください。

## ザ・プロクター・アンド・ギャンブル・カンパニー

### 添付書類 1: 米国会計原則で規定されていない財務指標

米国証券取引委員会 (SEC) のレギュレーション G に従い、プロクター & ギャンブルの 10 月 25 日の業績発表で使用している米国会計原則で規定されていない財務指標について、以下、その定義を示し、最も関連の深い米国会計原則上の数値との差異説明をします。当社は、この財務指標により基盤的な事業の傾向 (すなわち、一時的または特別な事項を除いた傾向) と業績を見ることが容易になり、前年と比べ業績がどれだけ変化したか補足説明が可能になると考えています。以下で説明している、米国会計原則で規定されていない財務指標は、経営陣が事業戦略上の目的で、業務上の意思決定を行い、財務資源を配分するために利用されています。これらの指標は、投資家の皆様に対して、事業業績に関する補足情報を提供し、経営陣の観点から事業業績を見ていただくのに可能性があります。また、これらの指標は、上席経営者の評価に使用される財務指標の一つであり、リスク報酬を決定する際の一要素でもあります。これらの米国会計原則で規定されていない財務指標は、関連する米国会計原則上の財務指標の代わりとして利用していただくことを意図したのではなく、むしろ、当社業績に関する補足的な情報となることを意図したものです。これらの米国会計原則で規定されない財務指標は、算出方法や、調整される事項や出来事が他社と異なる可能性があるため、他社が使用している類似の指標と異なる可能性があります。

中核業績指標は、対応する米国会計原則に基づく財務指標から以下の差異を調整したものです。

#### 追加の組織再編 (Incremental Restructuring)

当社は、組織再編活動を通常の事業活動一環として継続的に行っています。そうした活動の結果、税引前年間約 250~500 百万ドルに上る組織再編に関連する費用が経常的に発生してきました。P & G は、2012 事業年度から、100 億ドルに上る戦略的生産性向上活動、および、追加的な組織再編活動を含めたコスト削減に着手しました。これにより、生産性向上活動とコスト削減を加速する追加的な組織再編費用が発生します。中核利益との差異には、当社が通常発生するレベルと考えている、上述の組織再編費用のみが含まれます。

当社は、上記の事項が当社の持続的な業績を構成する要素とは考えておらず、中核利益指標から除外することで、前年との業績変化の比較が可能な指標を提供しています。

#### 本源的売上高成長率 (Organic Sales Growth)

本源的売上高成長率は、売上高成長率に関する米国会計原則で規定していない財務指標であり、前年同期との比較において事業の買収・売却の影響と為替レートの影響を除いたものをいいます。経営陣は、一貫した基準で売上高の成長性を示すことにより、基礎的な売上高の傾向について、投資家の皆様に補完的な理解を深めていただけるものと考えています。そして、この指標は、リスク報酬に対する経営陣の目標達成の測定に使用されます。

### **中核営業利益率(Core Operating Profit Margin)**

中核営業利益率は、当社の営業利益率から、上述の項目を調整した指標です。経営陣は、この米国会計原則で規定されない指標が、当社の長期的に見た営業効率に対する補足的な観点を提供するものと考えています。

### **中核売上総利益率(Core Gross Margin)**

中核売上総利益率は、当社の売上総利益率から、上述の項目を調整した指標です。経営陣は、この米国会計原則で規定されない指標が、当社の長期的に見た営業効率に対する補足的な観点を提供するものと考えています。

### **1株当たり中核利益(Core EPS)と為替レートの影響を除いた1株当たり中核利益(Currency-neutral Core EPS)**

1株当たり中核利益とは、当社の継続事業からの希薄化後1株当たり純利益から、上述の差異を調整した指標です。為替レートの影響を除いた1株当たり中核利益とは、1株当たり中核利益から為替レートの当年の追加の影響を除いたものです。経営陣は、これらの米国会計原則で規定されない指標が、当社業績の補足指標として有用であると考えています。

### **フリーキャッシュフロー(Free Cash Flow)**

フリーキャッシュフローとは、営業キャッシュフローから設備投資支出を差し引いたものをいいます。フリーキャッシュフローは、当社にとって資産維持と資産拡充計画を考慮したうえで、生み出すことのできる資金を表しています。当社は、フリーキャッシュフローが重要な財務指標であると考えています。なぜなら、フリーキャッシュフローは、配当および任意の投資に利用できる資金の金額を決定する際の一要素となるからです。

### **フリーキャッシュフロー生産性(Free Cash Flow Productivity)**

フリーキャッシュフロー生産性とは、純利益に対するフリーキャッシュフローの割合です。当社は、フリーキャッシュフロー生産性が、投資家の皆様にとってP&Gがどれほどの資金を生み出す能力があるのか理解するのに、有用な指標であると考えています。フリーキャッシュフロー生産性は、経営陣が業務上の意思決定を下したり、予算計画を立てるための財務資源を配分したりするのに利用されます。当社の長期目標は、90%以上のフリーキャッシュフロー生産性を達成することです。

ザ・プロクター・アンド・ギャンブル・カンパニーおよび子会社

(単位：百万ドル、ただし1株あたりの数値を除く)

主要な財務情報と会計基準外指標

2016年9月30日をもって終了した3カ月

	米国会計基準	非継続事業	追加の組織 再編費用	端数処理	会計基準外 (中核業績)
売上原価	8,102	—	-111	—	7,991
売上総利益	8,416	—	111	—	8,527
売上総利益率	51.0%	—	0.7%	-0.1%	51.6%
販売管理費	4,645	—	23	-1	4,667
純売上高に対する販売 管理費の割合	28.1%	—	0.1%	0.1%	28.3%
営業利益	3,771	—	88	1	3,860
営業利益率	22.8%	—	0.5%	0.1%	23.4%
継続事業からの 法人所得税	863	—	15	1	879
純利益 P & G 相当分	2,714	118	73	—	2,905
実効税率	23.1%	—	-0.1%	—	23.0%
					<b>1株当たり中 核利益</b>
継続事業からの希薄化 後1株当たり純利益*	0.96	0.04	0.03	—	1.03
					中核利益に与える為替レートの影響 為替レートの影響を除いた中核利益
					0.07 1.10

\*希薄化後普通株式1株当たり純利益は、プロクター&ギャンブルに帰属する純利益に基づいています。

対前年比

中核売上総利益率	50 BPS
純売上高に対する中核販売管理費の割合	40 BPS
中核営業利益率	20 BPS
中核実効税率	-90 BPS
中核1株当たり利益	5%
為替レートの影響を除いた中核1株当たり利益	12%



ザ・プロクター・アンド・ギャンブル・カンパニーおよび子会社

(単位：百万ドル、ただし1株あたりの数値を除く)

主要な財務情報と会計基準外指標

2015年9月30日をもって終了した3カ月

	米国会計基準	非継続事業	追加の組織 再編費用	端数処理	会計基準外 (中核業績)
売上原価	8,152	—	-72	—	8,080
売上総利益	8,375	—	72	—	8,447
売上総利益率	50.7%	—	0.4%	—	51.1%
販売管理費	4,607	—	—	—	4,607
純売上高に対する販売 管理費の割合	27.9%	—	—	—	27.9%
営業利益	3,768	—	72	—	3,840
営業利益率	22.8%	—	0.4%	—	23.2%
継続事業からの 法人所得税	877	—	14	1	892
純利益P & G相当分	2,601	142	58	-1	2,800
実効税率	24.0%	—	-0.1%	—	23.9%
					<b>1株当たり中 核利益</b>
継続事業からの希薄化 後1株当たり純利益*	0.91	0.05	0.02	—	0.98

\*希薄化後普通株式1株当たり純利益は、プロクター&ギャンブルに帰属する純利益に基づいています。

本源的売上高成長率(Organic Sales Growth)

2016年7-9月期	売上高全体の 成長率	為替レートの 影響	事業の 買収・売却の影 響*	本源的 売上高 成長率
ビューティー事業	-1%	2%	2%	3%
グルーミング事業	-1%	3%	1%	3%
ヘルスケア事業	4%	3%	—	7%
ファブリック& ホームケア事業	1%	2%	1%	4%
ベビーケア、フェミニン &ファミリーケア事業	-1%	3%	—	2%
<b>P &amp; G全体</b>	<b>—</b>	<b>3%</b>	<b>—</b>	<b>3%</b>

P & G全体	売上高全体の 成長率	為替レートと事業の買収・売却の影 響*	本源的 売上高 成長率

2017 事業年度通期 (予想)	1%	1%	2%
------------------	----	----	----

\*事業の買収・売却の影響は、事業の買収・売却によるミックスの影響、ならびに純売上高から本源的売上高への差異分析に欠かせない端数処理を含みます。

### 1 株当たり中核利益 (Core EPS)

P & G 全体	希薄化後 1 株 当たり純利益 成長率	追加の非中核 分野での費用 の影響*	為替レートの 影響を除いた 中核利益 成長率
2017 事業年度通期 (予想)	45%~50%	-41%~-44%	ひと桁台半ば の増加

\*非継続事業 (予想されるビューティー事業ブランドの売却益を含む) における費用を含みます。

### フリーキャッシュフロー (Free Cash Flow) とフリーキャッシュフロー生産性 (Free Cash Flow Productivity)

(単位: 百万ドル)	営業 キャッシュ フロー	設備投資 支出	フリー キャッシュ フロー	純利益	フリー キャッシュ フロー 生産性
2016 年 7-9 月	3,025	-684	2,341	2,757	85%

ザ・プロクター・アンド・ギャンブル・カンパニーおよび子会社  
(単位：百万ドルまたは百万株、ただし1株当たりの数値を除く)  
連結損益計算書情報

	7-9月期		
	2016年 7-9月期	2015年 7-9月期	%増減
<b>純売上高</b>	16,518	16,527	-%
売上原価	8,102	8,152	-1%
<b>売上総利益</b>	8,416	8,375	-%
販売費及び一般管理費	4,645	4,607	1%
<b>営業利益</b>	3,771	3,768	-%
支払利息	131	140	-6%
受取利息	35	44	-20%
その他の営業外収益、純額	63	-18	—
<b>継続事業からの税引前利益</b>	3,738	3,654	2%
継続事業からの法人所得税	863	877	-2%
<b>継続事業からの純利益</b>	2,875	2,777	4%
<b>非継続事業からの純利益</b>	-118	-142	—
<b>純利益</b>	2,757	2,635	5%
減損非支配株主持分	43	34	26%
<b>純利益P &amp; G相当分</b>	2,714	2,601	4%
実効税率	23.1 %	24.0 %	

**普通株式1株当たり純利益\*:**

継続事業からの基本的純利益	\$ 1.03	\$ 0.98	5%
非継続事業からの基本的純利益	\$ -0.04	\$ -0.05	—
基本的純利益	\$ 0.99	\$ 0.93	6%

**希薄化後1株当たり純利益\*:**

継続事業からの希薄化後純利益	\$ 1.00	\$ 0.96	4%
非継続事業からの希薄化後純利益	\$ -0.04	\$ -0.05	—
希薄化後純利益	\$ 0.96	\$ 0.91	5%

配当金	\$ 0.6700	\$ 0.6630
希薄化後株式会社外流通数平均	2,822.9	2,867.5

純売上高に対する比率	ベース・ポイント 増減		
	2016年 7-9月期	2015年 7-9月期	
売上総利益	51.0 %	50.7 %	30
販売費及び一般管理費	28.1 %	27.9 %	20
営業利益	22.8 %	22.8 %	-
継続事業からの税引前利益	22.6 %	22.1 %	50
継続事業からの純利益	17.4 %	16.8 %	60
純利益P & G相当分	16.4 %	15.7 %	70

\*基本的普通株式1株当たり純利益および希薄化後普通株式1株当たり純利益は、プロクター&ギャンブルに帰属する純利益に基づいています。

ザ・プロクター・アンド・ギャンブル・カンパニーおよび子会社

(単位：百万ドル)

連結損益計算書情報

	2016年9月30日をもって終了した3ヶ月					
	対前年同期比 純売上高	増減(%)	継続事業から の税引前利益	対前年同期比 増減(%)	継続事業 からの純利益	対前年同期比 増減(%)
ビューティー事業	2,996	-1%	783	-5%	592	-5%
グルーミング事業	1,658	-1%	529	6%	415	6%
ヘルスケア事業	1,861	4%	496	11%	320	1%
ファブリック&ホームケア事業	5,302	1%	1,129	1%	728	-3%
ベビー、フェミニン&ファミリーケア事業	4,595	-1%	1,045	-6%	697	-7%
全社共通	106	-1%	-244	-	123	-
<b>全社合計</b>	<b>16,518</b>	<b>-%</b>	<b>3,738</b>	<b>2%</b>	<b>2,875</b>	<b>4%</b>

純売上高前年比増減要因(2016年9月30日をもって終了した3ヶ月)

(対前年同期比増減%)\*

	事業の買収・ 売却を含む 販売数量	事業の買収・ 売却を除く 販売数量	為替レート	価格	製品ミックス	その他**	純売上高 成長率
	ビューティー事業	-2%	2%	-2%	1%	1%	1%
グルーミング事業	-%	3%	-3%	1%	-%	1%	-1%
ヘルスケア事業	5%	5%	-3%	1%	1%	-%	4%
ファブリック&ホームケア事業	2%	4%	-2%	-1%	1%	1%	1%
ベビー、フェミニン&ファミリーケア事業	3%	4%	-3%	-1%	-1%	1%	-1%
<b>全社合計</b>	<b>2%</b>	<b>3%</b>	<b>-3%</b>	<b>-%</b>	<b>-%</b>	<b>1%</b>	<b>-%</b>

\*これらの純売上高に係る増減割合は、継続的に適用している計算方法に基づく概算値です。

\*\*その他には事業の買収・売却による売上ミックスの影響および純売上高との差異分析に欠かせない端数処理が含まれています。

ザ・プロクター・アンド・ギャンブル・カンパニーおよび子会社  
(単位：百万ドル)  
連結キャッシュフロー情報

	9月30日をもって終了した3カ月(累計)	
	2016年	2015年
期首残高	7,102	6,836
<b>営業活動</b>		
純利益	2,757	2,635
減価償却費および償却費	728	731
株式報酬費用	44	67
繰延法人所得税	-177	89
事業売却損益	-75	-7
営業権および無形資産の減損損失	-	402
以下の勘定における残高増減:		
受取債権	-424	-368
棚卸資産	-287	-519
買掛金、未払費用およびその他の負債	298	298
その他の営業資産および営業負債	135	141
その他	26	69
<b>営業活動合計</b>	<b>3,025</b>	<b>3,538</b>
<b>投資活動</b>		
設備投資支出	-684	-532
資産の売却収入	183	38
事業買収、取得現金控除後	-14	-
短期投資有価証券の購入	-631	-494
短期投資有価証券の売却収入	243	418
ビューティー事業売却時に譲渡した現金	-348	-
ビューティー事業売却に関する制限付預金	-874	-
その他投資の増減	4	24
<b>投資活動合計</b>	<b>-2,121</b>	<b>-546</b>
<b>財務活動</b>		
株主配当金	-1,851	-1,865
短期債務増減	1,519	450
長期債務増加	891	-
長期債務減少	-1,001	-537
自己株式購入	-1,002	-502
ストックオプション行使による収入及びその他	937	483
<b>財務活動合計</b>	<b>-507</b>	<b>-1,971</b>
現金及び現金同等物に対する為替レート変動の影響	-43	-152
<b>現金及び現金同等物の増減</b>	<b>354</b>	<b>869</b>
期末残高	<b>7,456</b>	<b>7,705</b>

ザ・プロクター・アンド・ギャンブル・カンパニーおよび子会社  
(単位：百万ドル)  
連結貸借対照表要約

	2016年9月30日	2016年6月30日
現金及び現金同等物	7,456	7,102
制限付預金	1,870	-
売却可能投資有価証券の購入	6,615	6,246
受取債権	4,713	4,373
棚卸資産合計	4,999	4,716
繰延税金資産	-	1,507
前払費用その他流動資産	2,447	2,653
売却予定流動資産	7,071	7,185
<b>流動資産合計</b>	<b>35,171</b>	<b>33,782</b>
有形固定資産、純額	19,310	19,385
営業権	44,458	44,350
商標権及びその他無形固定資産、純額	24,429	24,527
その他固定資産	5,675	5,092
<b>資産の部合計</b>	<b>129,043</b>	<b>127,136</b>
買掛金	9,024	9,325
未払費用及びその他流動負債	8,032	7,449
売却予定流動負債	3,130	2,343
1年以内に返済予定の債務	12,215	11,653
<b>流動負債合計</b>	<b>32,401</b>	<b>30,770</b>
長期債務	18,910	18,945
繰延税金負債	8,515	9,113
その他	10,266	10,325
<b>負債合計</b>	<b>70,092</b>	<b>69,153</b>
<b>株主資本合計</b>	<b>58,951</b>	<b>57,983</b>
<b>負債及び株主資本の部合計</b>	<b>129,043</b>	<b>127,136</b>